

★薄暮の時間帯 交通事故死が多発 「魔の7歳」突発的行動に伴う危険性

誰しも 夕暮れが早く日没前後の「薄暮」の時間帯になると周囲が見えづらくなる。毎年10月～年末にかけて、1年のうちで最も交通事故死者数が多い時期。暗くなるのが早く、時節柄 慌しくなり、気持ちに余裕がなくなることが原因となる。また 子供事故に「魔の7歳」という言葉。7歳を頂点に6～8歳は、歩行中の交通事故死者数が どの年齢層よりも群を抜いて多い。この年齢は交通ルールが 充分に分かっていなかったり、危険な行動は駄目だと頭ではわかっている、本能に従って体が動いてしまったりと非常に危険な年代。周囲に小さい子供がいたら、車やバイク・自転車のスピードを落とす、死角に注意する等 安全な行動を心掛けて 早めのライト点灯などで事故に注意して欲しいものです。

▼ 2024年 出生数 70万人割れ公算 少子化に歯止めを掛けるカギは？

今年の1～6月の出生数は32万9998人で 下半期も同じペースなら70万人を割る可能性は高い。少子化対策は結果が出るまでに時間がかかる。政府はもう30年も政策を打ち続けているのに成果が上がらない。働く女性を増やし就業率は上がり 成功した一方で、労働環境は改善されなかった。非正規雇用や低賃金、働き方の意識、東京一極集中といった問題が挙げられた。

子供が減り続ければ人手不足になる。人手不足の職場だと、気兼ねせずに産休や育休が取れない。意識が古いままの上司には、時短勤務や残業免除を申請しにくい。社会のすみずみまで変える覚悟がなければ、効果的な政策にはならない。寛容で、だれもが将来に展望を持てる社会。そんな環境で子どもは生まれ、育てて欲しいと思う。色々な要因があるが 意識変えて日本国民全員で育てないと 国家が滅亡する と考えてもらいたいものです。

★ PGF生命「大人の親子」調査 40歳以上 性格や食の好み「親に似てきた」

人生100年時代を迎え、成人後の親子関係も長く続いてきました。この度 PGF (プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険会社) は、9月10～11日(2日間)、70歳以上の実の親がいる40～69歳の男女対象に「おとなの親子」の生活調査2024をインターネットで実施し有効回答数2,000名の集計結果を公開。内閣府が定めた11月17日「家族の日」に因み 高齢の親のいる子供の生活について聞いた処、多様な生活実態や生活意識が垣間見える結果となりました。

年齢を重ねごとに「年々 性格や食の好みは親がにてきたなあ」と思うことがあります。調査結果では、51%が親に似てきたと思うと回答(女性56%・男性は74%)。複数回答で尋ねると、女性1位は「性格」(34%) 2位は「食事の好みや好きな味付け」(26%) 3位が「生活習慣」(25%)であった。男性は1位「性格」36% 2位「生活習慣」29% 3位は「行動パターン」20%と続いた。全体の10位以内には「価値観や人生観」の他、「口癖」「怒り口調」「笑い方」「溜息のつき方」といった具体的な内容も入った。

◆ 兵庫知事選 齋藤 元彦氏 再選 県会議員・県職員と民意のギャップ

兵庫知事選挙に於いて、従来の選挙のあり方が変わり、考えさせられるものとなった。パワハラ疑惑を内部告発され県議会86名の全会一致で不信任を受け失職した齋藤元彦前知事が、まさかの再選。

原因としては①『アンダードッグ効果』。即ち 劣勢・不利な立場にある人が魅力的に見えて、応援したくなる心理現象をいう。日本語では判官贔屓に匹敵。第一義には人々が源義経に対して抱く、客観的な視点を欠いた同情や哀惜の心情のこと。それに因む形で「弱い立場に置かれている者に対しては、あえて冷静に理非曲直を正そうとしないで同情を寄せてしまう」という心理現象を指す。②更に今回は SNSとの関連も強いアンダードッグ効果、即ち 影響を増す SNS。識者『若年層へのアプローチに成功』③日本の政治のあり方を必死に訴え、齋藤元彦を支える凄腕 当選請負人の 神ウイ嬢達の効果もあった。

県民が継続支持した齋藤氏と、NOを突きつけた反対派の県会議員・県職員と上手くやってほしいものです。25日には、百条委員会による齋藤氏の証人喚問等も継続され、県職員・関係者達はこころ穏かでいられないのでは……。県内部の混乱が、地方行政にも影響する。偏ったマスメディア報道に混乱させられることなく 双方で十分に話し合い、早期に 対立関係を改定して欲しいものです。

(文責 MMY)